

令和3年度第1回小牧市立図書館協議会会議録

日 時 令和3年7月14日（水）
午前10時00分～午前11時15分

場 所 小牧市中央図書館 イベントスペース

出席委員 9名

唐松 健夫	舟橋 尚女
伊藤 純子	麻生 文子
酒向 道夫	近藤 江里子
富川 茂男	坂東 益子
舟橋 精一	

欠席委員 坂廻辺 範子 林 義人
中島 美幸 中村 豊子（6月に逝去）

事務局 中川 宣芳 教育長
伊藤 武志 教育部長
石川 徹 教育部次長
山田 久 図書主幹
花里 千賀子 図書館図書係長
波多野 純子 図書館主査

傍聴者 なし

1 開会

【中川教育長】

委員の皆様におかれましては、本日大変お忙しい中、令和3年度第1回小牧市立図書館協議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。皆様におかれましては、日ごろより小牧市の図書館運営に対しまして、ご尽力をいただいておりますことを重ねてお礼を申し上げます。

さて、小牧市中央図書館が、本年の3月27日に開館してからおおむね3ヶ月が経過いたしました。開館直後には、来館者の市民の皆様から、施設面や、運営面につきまして、様々なご意見やご要望をいただいたところではありますが、その都度改善に努めさせていただきまして、現在、ようやく少しずつ落ち着いた運営がなされているところでもあります。

また、開館してから新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置、緊急事態宣言が発出され、本市の他の公共施設の大半は利用停止としたところですが、図書館につきましては、コロナ禍の過ごし方の一つとして、読書が推奨されているということから、多くの他市町村と同様に、感染防止対策に努めながら開館を継続させていただきました。

座席間の距離を取るために館内約600席の閲覧席の約半数の座席の間引きを行いました。それでも多くの方々にご来館いただいております。中高生をはじめとする市民の皆様の学習や情報収集の場、憩いの場として存分にご利用いただいております。

本日は、「小牧市教育振興基本計画」の改定に向けた、図書館が所管する部分の修正案についてご意見を賜ろうとするものでございますが、本市の教育行政は、教育の基本理念と8つの基本目標を定めた「小牧市教育大綱」と、その大綱を踏まえた上で、各教育分野における37の具体的な施策を定めた「小牧市教育振興基本計画」の2つの大きな柱を軸に据えております。そのうち「小牧市教育振興基本計画」は、策定から5年が経過し、変化する社会情勢に適切に対応するため、中間見直しを行おうとするものであります。

大変重要な議題であると考えていますので、限られた時間ではございますが、皆様から忌憚のないご意見をいただければと思います。

2 議事

【唐松会長】

それでは、議事2について、事務局より説明をいただきます。

【花里係長】

それでは議事（1）小牧市教育振興基本計画の改定に向けた修正案について、「小牧市教育振興基本計画」は、平成29年度から令和8年度までの10年間の計画で、策定から5年後を目途に、見直しを行うこととしています。改定に向けた事務スケジュールは、本日の図書館協議会にて、委員の皆様よりいただいたご意見を踏まえ、修正案を作成します。その後、修正案を10月～11月に開催予定の小牧市教育振興基

本計画推進会議及び評価委員会、総合教育会議に諮り、ご意見を求め、市民のパブリックコメントを経て、教育委員会の議決を得て、令和4年3月に改訂するものです。本日、皆様からいただいたご意見が、教育振興基本計画に直接反映されるのではなく、改定に向けて修正案を作成するために、ご意見を賜るものです。

この教育振興基本計画のうち、「施策8 こどもの読書活動の推進」「施策23 図書館サービスの充実」について、委員の皆様のご意見を踏まえ、修正案を作成してまいります。

－（説明）－

【唐松会長】

ただいまの事務局からの説明に対して、ご意見・ご質問等ありましたらご発言をお願いします。

【富川委員】

資料1－4の図書館サービスの充実の下に現状・課題ということで、5つありますが、一番下の項目について、どういう位置づけになるか聞きたい。1つ目から4つ目の項目の末尾が「行っています」、「図りました」、「必要です」と記載されていますが、5項目だけは「期待されています」と表現が違う形になっています。5項目をこのように表現した趣旨を教えてください。

【山田主幹】

この項目は、「現状」と「課題」が記載してあります。5つ目の項目には、中央図書館が開館したことにより市民の皆様の期待が高まっているという「現状」を記載しました。特別にこれだけを変えた意図はございませんが、「課題」が明確になるよう表現を検討します。

【舟橋（精）委員】

資料の1－2の具体的な取り組み欄に、学校教育課が担当課となっている「学校における読書活動の推進」にビブリオバトルという言葉が入っていますが、ここに入った経緯をお聞きしたい。

このビブリオバトルについて、図書館の催しとして開催する検討をされているのかどうか、そのことについてお聞きしたい。

【山田主幹】

ビブリオバトルについて、学校教育課が担当課となっているが、どうしてここにあるかというご質問ですが、数年前からビブリオバトルについて、学校で取り組んでいるということも聞いており、図書館に対しても、こうしたことをやってみてはどうかと提案をいただいている関係で、ここに加えたところです。

またビブリオバトルを、具体的に検討しているかということですが、まだ明確には

スケジュールには載っておりませんが、こうした手法を取り入れた事業ができないかと考えております。

いずれ、こうした名前そのままにならないにしても、本を紹介しあい、それが読書の啓発に結びつくような事業をやっていきたいと考えております。

【舟橋（精）委員】

ビブリオバトルについては令和元年の市議会（第2回定例会）で、催しの一つとして検討していききたいという話があったかと思えます。これに関連して、資料1-4のイベントの充実の項目が新たに追加されていますが、そういう中でのイベントに含まれるのではないかとと思えますが、図書館の方で計画されていると聞いております一箱古本市もここに含まれるかと思われますが、具体的にイベントとしてどのようなことを考えられているかご紹介ください。

【山田主幹】

ビブリオバトルに関しましてはご指摘の通りでございます。さらに加えるならば、国の読書活動推進計画の中にも友達同士で本を進め合うということも推奨されておりますので、そうした手法をとっていきたいと考えております。

イベントスペースでのイベントの充実を具体的にはどういうことを考えているかということですが、本年度はこの新図書館の開館初年度ということで、各種の事業を企画しております。コロナの影響もあり、後半期に少し集中してしましますが、夏には著名な絵本作家を招いて、絵本のワークショップを企画しております。その後、開館記念の講演会なども企画していきたいと考えております。

その他、定例的に市民活動ネットワークの皆さんのご協力を得て、このイベントスペースで、イベントの開催をしている状況です。

【唐松会長】

毎回申し上げていますが、新計画（案）資料1-5の図書館・各図書室等の連携について、この周辺の図書館でこういうことをやっているのは珍しく、小牧市は東部・味岡・北里がありネットワークでつながり、本館と同様に利用できることは素晴らしいと思っておりますが、いつまでも支所の一部みたいなままでなく、それぞれ独立させる、そうなるかどうかは別にして、そういう計画を検討するという事も念頭に置いて新しい施策を実施していただきたいと思っております。

【伊藤教育部長】

中央図書館ができて、大変良い図書館と好評をいただいております。それと同時に、3つの市民センター図書室の分室においても拡充について強い要望をいただいております。各図書室を独立とおっしゃられましたが独立という意味合いは拡充することと思ひ、より一層充実を図っていきたいと考えております。

【伊藤委員】

電子図書館の充実とあるのですが、具体的に利用者の皆さんがどのように、どんなことができるのか教えてください。

【山田主幹】

電子図書館は、新図書館のオープンに合わせて開設したものです。現在は、約1,000タイトルの電子書籍があり、市内に在住・在勤・在学の方に限られますが、図書館のホームページからたどり、利用者カード番号とパスワードを入力していただくと、2週間利用できます。その期限を過ぎると利用できなくなります。貸したり返したりという手間はなく自宅やスマートフォンからアクセスできる仕組みです。他市の例を見ましても、まだコンテンツの数が少ないということもあり、今後も充実をしていく必要があると考えております。

もう一つは、図書館の象山文庫の絵葉書や本など貴重な郷土資料をデジタル化いたしました。こちらはどなたでも画像で見ることができ、貸出・返却など一切なく閲覧できますので、こうした電子コンテンツもぜひ活用していただきたいと思っております。

【伊藤委員】

図書館まで足を運ばなくてもよいということですね。

【富川委員】

資料1-2の具体的な取組項目の5番目に書いてある図書館ボランティアの育成について、「ブックスタートに協力するボランティアを育成」という表現から、「ご協力いただく」といった、かなり丁寧な表現をされた意味合いがあれば教えてください。

【山田主幹】

図書館ボランティアの育成の部分について、表現が少々へりくだっていると印象づけられるということですが、この点につきましては館内でも議論したところです。図書館ボランティアについては、ボランティア育成の段階から一定期間が過ぎ、それぞれのグループがそれぞれ目指す方向性もあり、グループとして自立してきております。各グループの自主性を尊重しながら、図書館事業の中でご協力をしていただき、そういう状況になってきていると感じられ、こういった表現にさせていただきました。

【麻生委員】

ボランティアの麻生です。一生懸命ボランティアでやってきたことが、この文章で評価され、ありがたく思います。中央図書館ができて私たちの活動も活発になっていきます。そういうことが評価される、そんな感じの文章でうれしく思いました。

【唐松会長】

ご意見も出尽くしたようですので、計画の改定案として、資料1-3と1-5のとおりに修正します、ということを図書館協議会として了承をしました、ということです。よろしいですか。

(意見なし)

【唐松会長】

続きまして、次第3 小牧市図書館サービス計画と小牧市中央図書館の利用状況について事務局により説明をお願いします。

【花里係長】

報告(1)小牧市図書館サービス計画(令和2年度取組結果・令和3年度事業計画)、2「小牧市中央図書館の利用状況」について、報告させていただきます。

－ (報告) －

【唐松会長】

報告をありがとうございます。これについてご意見、ご質問等ございましたらご発言をお願いします。

【舟橋(精)委員】

旧図書館と比較した数値を報告いただきましたが、来館者数と貸出者数割合が、来館者数が5.4倍、貸出利用者が2.7倍という数字になるわけです。例えばカフェだけに訪れた人などの数値が反映されているかと推測されるのですが、そのあたりの数値はどうなっているかお聞きしたい。

それから、旧図書館において来館者数の数値が入っているが、どのようにして調べられたのか教えてください。

基本計画にもレファレンスサービスの充実という項目がありますが、実際レファレンスサービスをされている実際の件数、その傾向また年齢層等をお示してください。

また、そのレファレンスサービスに関わらず、いろんな利用者からの問い合わせや質問などもあると思いますが、そんな問い合わせ等の内容の傾向とか数がわかれば教えてください。

【花里係長】

1点目の来館者について合計を示した数値となっており、カフェのみの利用者はカウントできません。

2点目の旧図書館の来館者数のカウントは旧図書館でも入口に人数カウンタが設置しており、入館者カウントをしていました。

3点目のレファレンスについての質問では3月27日の開館から、ホームページに専用フォームを用意して、質問できるよう試行しております。開館してから17件ございました。内容は地域・郷土に関すること、郷土史家の津田応助に関することなど、歴史・郷土に関するレファレンスでした。また、足利家に関するレファレンスもありました。

4点目の利用者からの問い合わせについては、図書館のホームページから問い合わせが届いています。現在の件数は112件で、内容は、子どもに作ったカードが見当たらないがどうしたらよいか、サイレントルームの予約方法、図書館の開館時間など、新しく導入したことや施設面に関する問い合わせでした。

【舟橋（精）委員】

レファレンスサービスの17件の方の属性とそのサービスをした後、どの様に使われたか、どのように役立ったかなど後追いの調査はしていますか。

前の図書館でカウンタが設置されていたのは知りませんでした。

コロナ禍で、例えば今の時点で何人の方が入っているか、また何人入ったら入場制限とか、そのようなことはありますでしょうか。

【山田主幹】

最後の点からお答えしたいと思いますが、現在のゲートのところには入館者カウンタがございます。館内滞在者が300人を超えると、表示上は赤く点滅になり、その時は集まっている人がいないか館内の様子を見回り、なるべく長く館内に滞在しないよう、館内放送で常に行うなど数値を気にしています。試験週間がありました6月から7月にかけては館内が混雑しまして、気をつけているところです。この人数になったら帰宅を促すということはしておりません。

【花里係長】

レファレンスの属性について、17件のうち男性が多く、サービス後については、地域・郷土に関するものを中心に、レファレンス協同データベースへ登録を行い、レファレンスの充実を図ってまいります。

【山田主幹】

補足ですが、お1人非常に熱心な方で、開館以降、連日のように来館され、昔研究していた成果をぜひ本にしたいということで熱心に通われています。長年成果にまとめられなかったものを図書館のおかげで、本にまとめることができると、おっしゃっています。そういった方は珍しいかもしれませんが、日頃、ちょっとしたお手伝いすることによってそうした人の学習意欲がまた蘇ってくる、そういったものにつながると、我々としても非常に嬉しく思います。市外からのお尋ねや、小牧長久手の戦いについて熱心に調べてみえる方もあり、なかなか対応できないということもあります。

このようなご質問に限らずもう少し敷居を低くし、いろいろなご質問に資料でお答

えできるようになっていけたらと思っています。

【舟橋（精）委員】

繰り返し尋ねられる方がいるということですが、その回数をカウントされるのですね。実人数としては何人ですか。

【花里係長】

継続レファレンスもありますので、人数は13名、延べ件数で17件です。

【舟橋（精）委員】

旧本館のときの数値はありますか。

【花里係長】

旧本館だけではなく、えほん図書館・3センター図書室の合算で、令和2年度実績は、4,320件のレファレンスを受けています。これはクイックレファレンスを含みます。

【山田主幹】

クイックレファレンスとはその場で検索をして、この本はこの棚にありますというのを含めると、数は増えてきます。先ほど申し上げた17件はレファレンス用の様式に沿って、申込されたものに対する、時間のかかるものです。レファレンスといっても内容が違うということをご理解いただきますようお願いいたします。

【唐松会長】

レファレンスサービスは図書館によってとらえ方がちがいます。例えばある図書館は、「こういう本はどこにありますか」これで1件とする場合と軽易なものは件数としない場合があります。時間がかかるもの、かからないものがあり、数が多いというだけでその図書館の評価は必ずしもできない。図書館業界全体としてそういうことがありますので、ご理解をよろしくお願いします。

【舟橋（精）委員】

レファレンスについて、内容や経過などを知りたかったということです。

3 その他連絡事項

【唐松会長】

続いて、次第4 その他連絡事項について、事務局より連絡事項がありましたらお願いします。

【波多野主査】

1点連絡させていただきます。令和2年度における図書館の利用者統計、蔵書統計をはじめとする各種統計データや、実施事業の内容等を記載した「図書館年報（令和2年度実績）」を本日、机上へ配布いたしました。ご連絡は以上です。

【唐松会長】

図書館年報の13ページに図書館の予算があります。建物も大きくなり、新しくなったので予算が増えるのは当然ですが、5番の図書館施設管理事業費が大幅に増えている経緯を教えてください。

【山田主幹】

規模が約3倍になっているため、コンピュータ機器の借上げ、保守や光熱水費などあらゆる面で経費が上がってきています。

【唐松会長】

もう一点、図書館協議会とは関係ないですが、旧館は壊すということですが、いつ頃になるかということと、跡地利用を考えているか、公表していい情報、状況なのか、わかっている範囲内で結構ですのでお答えください

【山田主幹】

私ができる範囲でお答えします。今年度は、入札し業者を決定して契約を行って、9月以降、取り壊し工事に着手します。それから約10ヶ月間、来年度中の、夏頃までかかるということがございます。これ以上のことにつきましてはお答えできかねます。

【唐松会長】

その他ご意見のある方はおられますか。

(意見なし)

【唐松会長】

それでは、議事、報告、連絡等すべてが終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

【波多野主査】

これをもって、令和3年度第1回小牧市立図書館協議会を閉会いたします。